

# 昭和36年度調査研究概況

## I 総合研究

- 1、平城宮跡発掘調査（建造物・歴史研究室）
- 2、西大寺調査（美術工芸・建造物研究室）
- 3、唐招提寺総合調査（美術工芸・建造物・歴史研究室）

以上の概要については本文参照。

- 4、大和条里制の調査研究（歴史・建造物研究室）
- 5、仁和寺の研究（美術工芸・建造物・歴史研究室）
- 6、大和条里制と大和国条里制の前年度に引続き平城京の条里制と大和国条里制の資料の蒐集整理を行った。整理はパンチカードを利用（美術工芸部蔵庫調査）して、文献資料の蒐集につとめた。現在まで整理できたのは大日本古文書中の東大寺文書（西大寺田園目録、延久2年の興福寺雜役免課付帳（平安遣文第9巻所収））の一部である。

- 5、仁和寺の研究（美術工芸・建造物・歴史研究室）
- 6、大和条里制と大和国条里制の前年度に引続き、文部省科学研究費交付金（総合研究）を得て、京都国立博物館に協力して仁和寺の調査を行つた（研究題目「仁和寺における美術史料の調査とその研究」研究代表者：京都国立博物館学芸課長梅津次郎）。当研究所より参加したのは森薙守田（鶴山信三）、田能村忠雄、田中稔の5名で、それぞれ旧仁和寺子院法金剛院庭園の実測調査、仁和寺円堂院跡発掘、工芸品、絵画、古文書等資料の調査研究を行つた。これによつて円堂院の位置の

確認、鎌倉時代前期と見られる金銅転法輪筒や史料的価値の高い古文書などを多數発見することが出来た。

## II 各個研究

### 1、美術工芸研究室・彫刻

前掲のことく、興正菩薩釈尊の研究、二、宝山湛海研究、三、茨城県下諸寺の調査研究が本年度の主なものであるが、それらのはかに8月に行われた提寺講堂諸仏調査（唐招提寺総合調査）を行つた。

また、從來試みられたことの少かつた仏像の精密実測調査を蟹満寺釈迦如来像（9月）や興福寺旧山田寺仏頭（12月）において行い、さらに文化財保護委員会法隆寺中門重要文化財金剛力士像修理委員会の依頼によつて同像の精密実測調査（2月～3月）を行つた。

9月以来、絵画室としては、「近世に於ける南都絵画の研究」を研究課題に据び、以後資料蒐集についている。

とくに、南都の絵仏師に関しては、西大寺絵画調査の成果をうけて、觀音に關係深つた絵仏師覺尊の活動を中心とした遺品の、いくつかをとりあげて再度考察を試みた。

又、その一環として、唐招提寺藏「弁才天」（板繪・聖林寺藏絵画調査・仁和寺絵画史料蒐集を行ふ）、研究を推進している。

4、建造物研究室・遺跡

前掲の如く、西大寺称徳天御山莊跡、旧一乘院庭園遺跡、京都御苑内に残る棗殿造系庭園遺跡の調査を行つた。

昭和36年度調査研究概況

研究の最終的段階に到達した唐招提寺の「レース」については、本年度は論を續めるべく検討を深め、その成果を十周年記念学報に収録し得た。

同じく「レース」を納めた「金龜舍利塔」についても、一応、その目的は達せられたので、一つの試論としてではあるが成果を報告し

に舍利塔の場合は、工芸室の多年にわたる研究課題「舍利塔の様式的研究」について集積せられた研究成果の一

部であり、併せて御参考いただければ幸甚である。

その他、美術工芸研究室は從来通りの研究を行つてゐるが、工芸室が行つた調査については前述の如くである。また、前年よりの引続き研究課題に対し

ては年々その資料を重ねてきている。

3、美術工芸研究室 絵画

3、美術工芸研究室 絵画

9月以来、絵画室としては、「近世に於ける南都絵画の研究」を研究課題に据び、以後資料蒐集についている。

とくに、南都の絵仏師に関しては、西大寺絵画調査の成果をうけて、觀音に關係深つた絵仏師覺尊の活動を中心とした遺品の、いくつかをとりあげて再度考察を試みた。

又、その一環として、唐招提寺藏「弁才天」（板繪・聖林寺藏絵画調査・仁和寺絵画史料蒐集を行ふ）、研究を推進している。

4、建造物研究室・遺跡

前掲の如く、西大寺称徳天御山莊跡、旧一乘院庭園遺跡、京都御苑内に残る棗殿造系庭園遺跡の調査を行つた。

昨年度、材質の物理的、化学的調査を加えて、

昭和36年度調査研究概況

査が本年度の主なものであるが、それらの他に、昭和34年東大寺境内地の地形実測調査に引き続き、今回は東大寺の依頼もあり4月に東大寺天地院跡の地形実測調査を行った。目下のところ僧院跡などが地形的に推定されるが、その確認は4月下旬から5月にかけて臨川寺庭園の調査を行った。臨川寺は後醍醐天皇第一皇子世良親王の別荘莊院殿のあとを寺としたもので臨川家訓には夢窓国師築造の庭園があつたと記されているが、実測の結果、池、中島、築山等が確認できた。

奈良國立文化財研究所要項

6、歴史研究室・古文書  
南都諸大寺関係古文書 経典類の調査研究の一環として、前年度に引き続して興福寺・西大寺所蔵の古文書・経典類の一部を調査研究した。この中には高野山安養院所蔵の「聖教類」の一部を調査し写真撮影したが、その背文書の中から史料的価値の高い文書が多數発見された。なお6月には毎日新聞社による高野山文化財総合調査に参加し、宝寿院・持明院・懇持院・大明王院などの古文書・聖教類を調査した。また文化財保護委員会による調査にも協力し、12月には教王護国寺・宝善普提院の大般若經、1~2月には醍醐寺宋版一切經を調査した。

学 年 名 称	第一冊	第二冊	第三冊	第四冊	第五冊	第六冊	第七冊	第八冊	第九冊	第十冊	第十一冊	史 料
奈良國立文化財研究所史料	仏師運慶の研究	修学院離宮の復原的研究	文化史論叢	奈良時代僧房の研究	飛鳥寺発掘調査報告	中世庭園文化史	興福寺食堂発掘調査報告	文化史論叢	川原寺発掘調査報告	平城宮跡(第1次)発掘調査報告	院家建築の研究	西大寺叡尊伝記集成
第一冊 南阿弥陀仏作善集複製	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和36年	昭和36年	昭和36年	発行年度
第二冊	昭和30年	昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和36年	昭和36年	昭和36年	年代